

市立

いちかわ 自然博物館だより

令和7年(2025年)

12-1月号

(通巻 221号)

2025年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

シメ

冬から春先にかけて、林で見られる
野鳥です。実やタネが好物で、大き
なくちばしでタネを割つて食べます。

P1 いきもの写真館
シメ

P2 長田谷津いきもの暦
12月と1月の暦
/ 3

P4 花を透明にして観る
チェリーセージ

P5 長田谷津のとりたち
シロハラ

P6 くすのきのあるバス通りから
蛹になる場所

P6 ミニ解説 市川市域
市川市域の基本地形

P7 わたしの観察ノート
9~10月の記録

P8 ご案内

博物館だよりはカラー版をホームページでご覧いただけます。



自然博物館では学芸員が記録した自然観察の記録を自然観察週報としてHPで公開しています。その中から、長田谷津のここ10年の記録に焦点を当てて、日付順で記載しました。長田谷津の自然の移り変わり、季節指標などを感じていただければと思います。

長田谷津いきもの暦

12月

紅葉が終わり、冬の風物詩「ルリビタキ」がよく見られるようになると、長田谷津の冬も本番です。この時期、目を惹くのは鳥たちで、長田谷津のあちこちでその姿を見ることができます。また、葉の上や幹でひっそりと春を待つ、昆虫を探すのも楽しみの一つです。

- 1日 中央水路にクイナ
がいました(2021)
- 2日 キッコウハグマが
開放花を咲かせて
いました(2024)
- 3日 ガマの穂がはじけ
て、綿毛が飛んでいました(2024)
- 4日 枝だけになったサンショウの枝に、クロ
アゲハの蛹がついていました(2020)
- 5日 斜面林のコナラが黄色～橙色に色づきま
した(2015)
- 6日 落ち葉がつぎつぎ落ちてきました。イヌ
シデの実も、くるくる回りながら落ちて
きました(2016)
- 7日 湿地の草を刈っていたら、大きなニホン
アカガエルが出てきました。12月には産
卵場所に戻ってきて、待機しています。
(2016)
- 8日 湧き水の流れの横からトラツグミが飛び
立ちました(2019)
- 9日 珍しくカシラダカの声がしたので、探し
てみるとスギやモミジの樹冠に数羽確認
できました(2022)
- 10日 アカガシの葉の上にムラサキシジミの成
虫がいました (2023)
- 11日 常緑樹の葉の上
にムサキツバメ
が2頭止まってい
ました(2024)
- 12日 斜面林上方でパ
チン、パチンとフ
ジの実がはじけ
た音が聞こえてきました(2017)
- 13日 キジバトが餌をさがしていました(2020)
- 14日 斜面林に成獣のニホンノウサギがいまし
た(2018)
- 15日 バラ園下の池にマガモのオスが2羽来て
いました(2015)



キッコウハグマ

- 16日 ハンノキ林のかなり高い場所にキイロス
ズメバチの巣がありました(2022)

- 17日 ハリギリの実をコゲラがついばんでいま
した(2018)

- 18日 ムクノキの実を食
べにシロハラがひ
っかりなしにやっ
てきました(2022)

- 19日 寒波の後で数が増
えたのか、あちこ
ちでルリビタキをみか
けました(2023)



ルリビタキ

- 20日 シダレヤナギで越冬し
ているコムサラキの幼
虫を探すと、枝の付け
根で見つけることができ
ました(2024)



- 21日 モミジの木にウソの群
れが来て、実を食べていました(2019)

- 22日 アトリが地面に落ちたモミジの実を食べ
ていました(2021)

- 23日 茂った葉をどかすとジャノヒゲの青い実
がブドウみたいに実っていました(2017)

- 24日 ホトケドジョウ保全のために作った小さ
な池にカワセミが来ていました(2024)

- 25日 大町門から入ってすぐの池で、ダイサギ
が餌を探していました(2022)

- 26日 スギの枝先でキクイタダキがホバリング
して餌を探していました(2023)

- 27日 ガガイモの実が割れて、銀色の綿毛が現
われていました(2018)

- 28日 大池(噴水池)で「モズのはやにえ」を作
った瞬間を見ることができました(2022)

- 29日 -

- 30日 バラ園の中央水路にコサギがいました。
休園期間中で人が来ないので、エサ取り
に集中していました(2024)

- 31日 -



ムラサキツバメ

自然博物館では学芸員が記録した自然観察の記録を自然観察週報としてHPで公開しています。その中から、長田谷津のここ10年の記録に焦点を当てて、日付順で記載しました。長田谷津の自然の移り変わり、季節指標などを感じていただければと思います。

長田谷津いきもの暦

1月

- 1日 カワセミのメスに出会うことができました(2020)
- 2日 -
- 3日 マヒワの6羽ほどの群れが、水を飲みに園路の脇に降りてきました(2021)
- 4日 カケスがドングリをくわえていました(2019)
- 5日 篠ヤブから、バタバタバタと羽音を立ててヤマシギが飛び立ちました(2019)
- 6日 園路から手を伸ばせば、触れそうな場所にアオサギがいました(2018)
- 7日 シロハラが落ち葉の中の餌を探っていました(2017)
- 8日 今冬は、長田谷津でツグミを多く見かけます(2023)
- 9日 目線の高さをメジロやシジュウカラが枝伝いに渡っていました(2017)
- 10日 ハンノキ林そばの草刈りした付近に、この冬はモズがよくいます(2015)
- 11日 三角池の脇にトラツグミの羽が散乱していました。オオタカなどの猛禽類の仕業だと思われます(2021)
- 12日 中央水路にハイタカが降下して、カワセミを襲いました。カワセミは悲鳴を上げて飛び去りました(2023)
- 13日 霜で真っ白になった朝、ジョウビタキの声と、羽根を打つ音がよく聞こえました(2016)
- 14日 調査で斜面林に入ったら、タヌキと鉢合わせしました(2022)
- 15日 ウラギンシジミを見つけました(2020)

寒さが一段と厳しくなり、雪が降ることもあります。12月に引き続き、鳥たちが主役です。バードウォッチング目的の来園者には、ヤマシギやトラツグミなど見ることが難しい鳥が人気者のです。例年通りだと下旬にはニホンアカガエルの産卵が始まります。



ヤマシギ



アオサギ



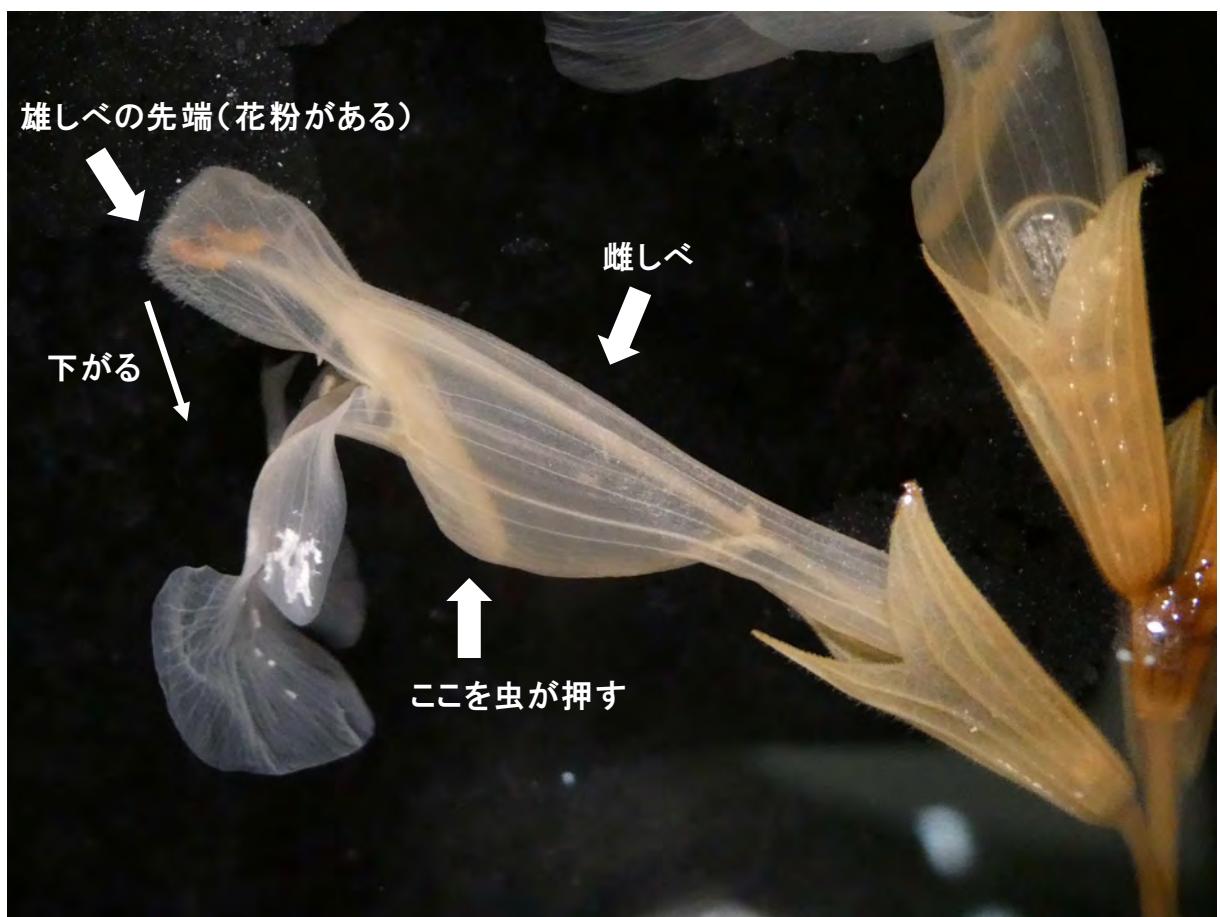
アズマモグラのモグラ塚

- 16日 池をさらうと、おなかの大きなニホンアカガエルがあわてて逃げていきました(2021)
- 17日 三角池にコガモ1羽が降りました。長田谷津では珍しいです(2022)
- 18日 木の上にいるオオタカを見つけて双眼鏡で覗くと、なんとオシドリの雌を食べていました(2023)
- 19日 エコアップ池のまわりに、たくさんモグラ塚ができていました(2020)
- 20日 三角池上空をノスリがゆっくりと飛びました(2023)
- 21日 もみじ山でクロジを見かけました(2023)
- 22日 アオカワモヅクの株が少しずつ大きくなり、数も増えていました(2021)
- 23日 ハンノキの花序が開いていました。風があったので、花が咲いたハンノキの下は花粉で黄色く煙っていました(2015)
- 24日 ニホンアカガエルの卵塊が6個、見つかりました(2016)
- 25日 枯れたアシを刈ると、越冬しているクビキリギスの成虫が出てきました(2015)
- 26日 ルリビタキのメスがベンチの上に止まっていました(2022)
- 27日 ガガイモの実がはじけて、銀色の毛が枯れたヨシ原に散乱していました(2019)
- 28日 手の届きそうな距離でアオジがじっとしていました(2022)
- 29日 草を刈って広々とした湿地でトラツグミがダンスを踊っていました(2018)
- 30日 湿地に生えるノイバラからナナホシテントウが出てきて飛んでいきました(2017)
- 31日 もみじ山の、枯れた立派なコナラにアカゲラが来ました(2024)

花を透明にして観る*****

チエリーセージ

花を薬品で処理して透明にしました。一般的な押し葉標本だと花も平らになってしまいますが、この方法だと立体を保ったまま内部構造を見ることができます。印刷物にすることで結局、平面になってしまいますが、実物をそのまま見れば立体的に花のつくりを理解することができます。



チエリーセージの花（今回は園芸植物です）

- ・花は筒状で、先が上下に分かれて開口する（唇形花）。上側は折り紙の山折りのようになっていて、内部に柱頭、薬（やく）の先端が収まる。下側は広がっていて、虫の着地点になっている。
- ・筒の天井に沿って伸びるのが雌しべ。先端の柱頭は上下に分かれる（写真では見えにくい）。
- ・雄しべは筒の床側で花びら（花冠）と一体化している。
- ・花が上下に分かれる分かれ目付近で 2 本の雄しべが並行する位置に出現し、それぞれ 2 つに分かれ、片方は開口部上側に伸びて先端に花粉をつけ、もう片方は反対側、筒の床側に伸びて 2 つが一体化して幅広くなる。侵入した昆虫がこれを押すと、上に伸びた方がテコの原理で下がり、先端の花粉を昆虫につける（つまようじで開口部の中央を押すと体験できます）。

長田谷津のとりたち

自然博物館で行っている鳥類調査の記録から
一押しのとりたちをエピソードと共に紹介します。

シロハラ

シロハラは東アジアに分布するツグミの仲間です。日本には北海道では渡りの時期に、それ以外の地域では主に越冬のために飛来し、秋から春にかけて見ることができます。また、繁殖が確認された地域もあります。長田谷津では11月上旬ごろから見かけるようになり、冬中観察することができます。斜面林で「ガサガサ」と落ち葉を搔きわけて餌を探す音は、冬の風物詩です。渡去は比較的遅く、4月中旬までは見ることができます、さえずりを聞くこともあります。

シロハラの年齢を見分けてみよう

シロハラの観察が楽しくなる(?) 年齢識別についてお話しします。鳥が、生まれてから初めて生えそろう正羽を幼羽(ようう)と言います。この幼羽は、その後、生え変わる羽毛と模様や形、大きさなどが異なり、見分けることができます。鳥は古い羽毛を脱落させて、新しい羽毛を生やします。これを換羽(かんう)と言います。幼羽を身にまとった生後1年目の鳥は換羽をすることで、徐々に幼羽がなくなります。つまり、ほとんどの場合、幼羽があれば、1年目の個体ということになります。



図1. 成鳥冬羽 (2年目以降の個体) 2025年2月26日 栃木県真岡市 ※

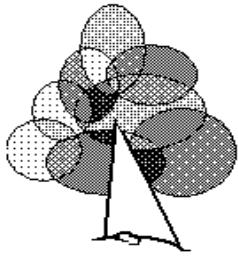
シロハラを含めたツグミの仲間で幼羽がわかりやすい場所は大雨覆(おおあまおおい)という部位です。成鳥の大雨覆は羽毛自体が長く、先端に模様はありません(図1)。それに対して、幼羽は羽毛自体が短く、先端に淡褐色の斑があります(図2)。



図2. 第1回冬羽(1年目の個体) 2025年1月30日 長田谷津

図2の個体は、大雨覆を途中まで換羽をしている状態です。鳥の体から見て、内側に生え変わった大雨覆、外側に幼羽のままの大雨覆が残っています。

※図1は比較しやすいように写真を反転させています



蛹になる場所

今年の紅葉は、きれいです。暑い間、雨や台風がなく、枯れた葉もありました。その後、雨が続き、急に気温が下がりました。千葉県以外の人家近くで、「クマ出没」の情報があります。身近な場所の紅葉を、楽しんでいます。強い北風が吹く日もあり、赤や黄色の葉が、道路一面に散り敷いています。

道路にこぼれ落ちた、オシロイバナの種を拾っていました。かつて池もあり、春先にカエルが集まる、広いお庭のお宅の側です。ブロック塀の、地面から10センチ位の所に、アオスジアゲハの蛹がありました。庭の中にクスノキがあります。草が生えた土の上、ブロック塀を乗り越え、道路側で蛹になったようです。

以前、アオスジアゲハはどこで蛹になるのか疑問に思っていました。街路樹の

幹を、丹念に探したり、根元の枯れ葉をひっくり返したり、剪定をしている庭師さんに聞いたりしました。近くの塀で、蛹が見つかりました。道路際のクスノキから降りて、歩道を横切り、塀をよじ登り、蛹になったようです。

自然博の方に聞くと「クスノキの葉脈に沿って、蛹がついていることがあります」「ある程度歩かないと、蛹になるスイッチが入らないのかも」「食草で蛹になると、寄生蜂に狙われるかも」「食草から離れて蛹になる蝶と、食草の上で蛹になるものもいる」「飼育ケースの中で、歩き回り、蛹になるものもいる」といろいろです。小さい頃、名前もわからず飼っていた幼虫が、逃げ出したのは、蛹になる場所を探していたのだったのでは…と思いました。

(M. M.)

市川市域

No.5

市川市域の基本地形

右の図は、明治時代の市川市域を流れる川の流路を示したものです。国分川と大柏川という2つの川が下流で合流して真間川となり、市川砂州にさえぎられて西に向きを変え、江戸川に注ぎます。その図に砂州と台地の部分を着色で書き足しました。これが市川市域の基本的な地形になります。

北部に3つの台地と、その間に2つの谷があり、その谷を国分川と大柏川が流れます。台地が終わつたところで低地になり、市川砂州をはさんで低地は南側に続きます。その先は東京湾ですが、地形的には低地は海底までなだらかに続いています。





◆長田谷津より

- ・湿地でハシカグサが咲いていました(9/9)。ほかの場所ではタカサブロウやチョウジタデが咲いていました。どれも、いわゆる水田雑草です。かつて一面の水田が広がっていた市川市域では、古くからのメンバーと言える植物です。
- ・ツユクサやツリフネソウに続いて、アキノウナギツカミが見ごろになりました(10/2)。アカバナやヒメジソも咲き、野草が好きな人にはいい季節です。
- ・今シーズンは長田谷津のコブシがよく実りました(10/14)。園路に枝を延ばしたコブシにはたわわに実が下がり、ちょうど割れて赤い町飾りのようでした。
- ・イシミカワの実が色づきました(10/29)。青系の色は長田谷津では少ないので、うれしい存在です。

以上 金子謙一(自然博物館)

◆大町動物園内より

- ・常連の来館者の方から園内でアケビコノハの幼虫がいたと教えていただきました(9/13)。見に行くと、植栽のムベに様々な大きさの幼虫が何匹もついていました。アケビコノハの幼虫は飼育展示で人気があるので、2匹ほど捕獲し、展示しました。
- ・動物園の飼育員さんからトビイロトラガの幼虫をいただきました(9/30)。トビイロトラガは園内でたまに見つかります。ブドウ科の植物を食べるので、ツタやヤブガラシを食べているものと思われます。

以上 稲村優一(自然博物館)

◆坂川旧河口より

- ・坂川旧河口の一部にオギが群生していて、長く伸びた穂が風になびいてきれいでした(10/23)。穂が熟して銀色の毛が伸びると、もっときれいになると思います。

金子謙一

◆三番瀬より

- ・干潟にウミネコの100羽ほどの群れが降りていました(10/11)。群れにはユリカモメが2羽とセグロカモメが5羽ほど混ざっていました。
- ・干潟でダイゼンが小さなカニを食べていました(10/17)。食べているカニの種類を知るために撮影して確認すると、コメツキガニでした。

以上 稲村優一

◆江戸川放水路より

- ・トビハゼ護岸は、波消しで置かれたカゴが壊れて、中の石が小島のように点々と積みあがっています。満潮の時の鳥のいい休み場になっていて、この日はメダイチドリが十数羽、イソシギ1羽、ハマシギ1羽が見られました(9/18)。メダイチドリはほとんど幼鳥でしたが、成鳥も混じっていました。
- ・トビハゼの稚魚(当歳魚)の調査を行いました(10/28)。いわゆるトビハゼ護岸はヨシ原が広がったおかげでトビハゼが新たに住み着き、何匹もいました。

以上 金子謙一

9月に入っても続いていた真夏日は、18日を境に収まり涼しくなりました。晴れの日は続かず、10月下旬には一転して冬の服装となりました。

ホームページをご利用ください

自然博物館では、市川市域の自然に関する情報や解説を、ホームページ（webサイト）に掲載しています。展示室のパネルよりも、ホームページの方が情報量は格段に多いです。検索で「市川自然博物館」と入れていただき、下に示した画面が出てくれば、それが当館のホームページのトップです（検索1番目を開くと市川市役所のページに誘導されてしまう場合がありますので、その時は検索2番目を開いてみてください）。



ホームページの内容

- ご利用案内
- 展示紹介、詳しい解説
- 行事案内
- 自然観察の記録、オリジナル動画
- 博物館だより、出版物のご案内



〈行事のご案内〉

長田谷津は、大町公園の自然観察園のもともとの呼び名です。

○長田谷津散策会（申し込み不要・荒天中止）

季節の風景や動植物を楽しみながら、
ゆっくりと散策します。

集合：動物園券売所前 午前10時

解散：集合と同じ場所で 午前11時30分

○湿地の環境整備をお手伝いしてくださいませんか (要問合せ・荒天中止)

学芸員と一緒に環境整備作業を行います。

たとえば…湿地の草刈、枯れ枝のかたづけ、水路の整備、など

集合：観賞植物園 午前10時

解散：集合と同じ場所で 正午

初参加の方は・・・お電話で博物館までお問合せください。

湿地の中に入る作業もありますので作業内容や身支度などについてご説明します。

	長田谷津散策会	湿地環境整備
12月	13日 土曜日	21日 日曜日
1月	18日 日曜日	25日 日曜日
2月	21日 土曜日	おやすみ
3月	22日 日曜日	1日 日曜日 29日 日曜日

臨時休館のお知らせ

年内の開館は12月27日まで

令和8年2月27日まで休館いたします

自然博物館は、
照明器具のLED化工事を行うため、
臨時休館いたします。

この期間中も行事はおこないます

第38巻 第5号（通巻第221号）

令和7年12月1日発行

編集・発行/市立市川自然博物館
(市川市教育委員会教育振興部)

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477